

従軍慰安婦という嘘

従軍慰安婦と呼ばれる者の正体は……

従軍慰安婦＝職業売春婦であり、
強制連行＝同じ朝鮮人に騙されて連れ出された事である。

■では、なぜこのような嘘がまかりとおるようになったのか？■

昭和58年、吉田清治が、著書「私の戦争犯罪・朝鮮人連行強制記録」の中で、昭和18年に軍の命令で「挺身隊」として、韓国斉州島で女性を「強制連行」して慰安婦にしたという「体験」を発表。朝日新聞は、これを平成3年から翌年にかけて、4回にわたり、報道。

4年1月11日、朝日新聞は、一面トップで「慰安所、軍関与示す資料」、「部隊に設置指示 募集含め統制・監督」と報道。

石原副長官がすかさず軍・官の強制連行の証拠は発見出来なかった（今に至るも発見されていない）と発表したが時既に遅し。

この記事に疑問をもった済州新聞の許榮善記者と秦郁彦日大教授の調査により原著書は全くの作り話であることが判明。

自ら名乗り出た慰安婦について:この女性、金学順さんは、「女子挺身隊」として連行などされていない事を、8月14日の記者会見で自ら語り生活苦から14歳の時に平壤のあるキーセン検番（日本でいう置屋）に売られていった。三年間の検番生活を終えた金さんが初めての就職だと思って、検番の義父に連れていかれた所が、華北の日本軍300名余りがいる部隊の前だった」ことも判明。当時、内地でもよくあった気の毒な「身売り」の話なのである。国家による組織的な強制連行とは関係ない。

そもそも「女子挺身隊」とは、昭和18年9月に閣議決定されたもので、金学順さんが17歳であった昭和14年には存在していない制度である。さらに「女子挺身隊」とは、販売店員、改札係、車掌、理髪師など、17職種の男子就業を禁止し、25歳未満の女子を動員したものであり、慰安婦とは何の関係もない。

軍の関与について:発見された文書とは昭和13年に陸軍省通達、「軍慰安所従業婦等募集に関する件」であり、その趣旨は民間の悪徳業者による誘拐まがいの行為即ち「強制連行」を、軍が警察と協力してやめさせようとした事なのである。

これを原文書から都合のいい文言をツマミ食いし「慰安所、軍関与示す資料」、「部隊に設置指示 募集含め統制・監督」とした将にヒッカケ記事だった。

これが真相なのである。

裏面に続く↓



大金を稼ぐ”従軍慰安婦”(産経新聞コラム・産経抄)

▼紙数がないので一点だけ書くが、前に河野談話では「慰安所における生活は強制的な状況の下での痛ましいものであった」ことを強調していた。では彼女たちはどんな状況の下で暮らしていたのか。朝日新聞には、連合軍がビルマの朝鮮人慰安婦に尋問した結果(一九四四年)の報告がある▼それによると「一カ月三百一千五百円の稼ぎを得て、五〇一六〇%は経営者の取り分だった」。そうだとすると彼女たちの月収は百五十円から七百円ほどになっていた。昭和十九年ごろ、内地の日本人の月収はどれほどだったか

▼『値段の明治大正昭和風俗史』(週刊朝日編)によると、警察官の初任給が四十五円、理髪料金が八十銭、銭湯が十二銭という物価である。大学の年間授業料は早大が三百四十円、慶大が三百五十円、彼女たちはそれを一カ月ほどで稼ぎ出していた

*

藤岡信勝氏(東大教授)は産経新聞八月八日付の「正論」欄でこう述べている。

そもそも、慰安婦問題の発端から今日に至るまで、その主役は一貫して朝日新聞であった。慰安婦問題のすべての出発点は、被害者の訴えでもなければ韓国政府の要求でもなく、吉田清治という詐欺師の書いた『私の戦争犯罪——朝鮮人強制連行』(一九八三年、三一書房刊)という偽書である。昭和十八年に韓国の済州島で慰安婦の奴隷狩りをしたという著者の「証言」を、朝日は何の検証もせず論説委員が手放しでほめそやした。それがまったくのつくり話であったことが暴露されてからも朝日は、この大誤報についてただの一行の訂正記事も読者への謝罪も行っていない。朝日はいつまで、こうした醜悪・卑劣な「朝日新聞の正義」を貫くつもりなのか。

マスコミ=正しい事を報道する と言うのは嘘です!

自らの手で情報を得るようにしましょう!

たとえば検索してみてください「朝鮮進駐軍」と。

在日特権を許さない市民の会

<http://www.zaitokukai.info>